# 19 日本国特許庁

# 公開特許公報

①特開昭 52 -63548

ょし43公開日

昭 52. (1977) 5.26 50-138973 ②特願昭

昭50.(1975) //./8 22)出願日

審査請求 未請求 (全2頁)

庁内整理番号 6679 31

特許庁長官

大阪府門以市大学門真1048番地 松下舷汇株式会社内

(はか1名).

Æ 特許出願人 Œ

> 11 歇

ili

隹

2000m c

大阪府門以市大字門與1048番地 (583) 松下電工株式会社 丹 : 羽 īE -

代农者

大阪府門八市大字門真1048番地 松下邱工株式会社特許原内 (6201)弁理士 敏 丸(ほか2名)

氏 ጸ 添付書間の目録 (1)

(2) 24 面 (3)

神許庁

52日本分類 53 E16

(51) Int. C12 E050 11/06 識別 記号

発明の名称

2. 特許請求の新囲

羽板を蝶覆するピンにリングを飲挿し、鼓リン グに突出邸を改けることにより、その羽板の解成 角度を規制することを特徴とする丁番。

3. 発明の詳細な説明

この発明は丁番に関するものである。

従来の丁掛は、第120の矢印で示すように270 ~ 300 度程度の朋き角度があるため、ドアを取付 けた場合第2関に示すようにドア1またはドアノ ファが政備ユニット3の壁 4 あるいは備品 5 にあ たりその漫淘に傷をつける。これを防止する方法 として通常ドアストッパーやチェッカーを用いる がサッシュや減販を主体に形成する設備ユニット 3 の構造上取り付けられない場合や、強度的に不 充分な収付けしかできない場合が多い。

したがつて、この免明の目的は、必要な角度以 上に明かない丁番を提供することである。

第3図はこの発明の一実施例の外観斜視図であ

第4図は分解平面図である。図において、丁 は羽根板で、Bに設けられているナックルの 10 間にリング14 を介在せしの、遅結ヒン11 を買 通して構成される。

本例の場合リングははナックルり、10の滑りを よくするために飫煇されているもので、通常アル リン、テフロン、ナイロン存で形成される。

12 はリング4の外間に弧状に設けられた突出部 である。13は羽枝7、8に設けられている釘穴で

突出部12は開防する羽板7.8の側面に突当る 大きさに形成されている。而して羽板1,8は各 々突出部12に突当る破線路位置まで崩脱する。

ての構成において、準3圴の状態から了番6を 約90 生湖成すると、お5 辺に示すように、豺板1 の側面は突出部 12 の先端 124 に当り、羽板 8 の側面 は突出 邸 12 の 他方の 先 協 12 0 に 尖当 るので、 それ 以上丁替のは開成しない。なお丁番のは突出部12 の位置を変えることにより説き角度を変えること ができる。

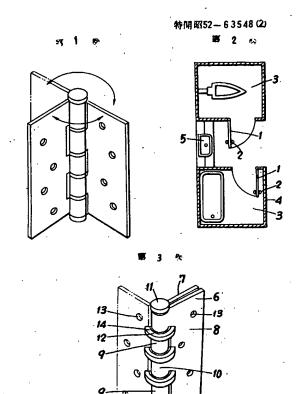
以上のように本発明による丁番は羽板の蝶着するピンにリングを嵌挿し、 放リングに突出部を取けることにより、 その羽板の眺成角度を規制することを特徴とするものであるので、 リングに設けた実出 輝により羽板の回動が所定の角度以下に規制され、必要以上に開かない。 そのため、ドアストッパーやドアチェッカーが不要となる。

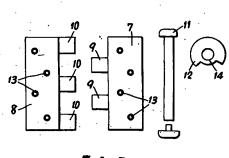
尚、リング14としては、第6図及び第7図に示されるごとく、尚状のものを使用してもよく、この場合突出部13が大きくでき側板7,8の突当りに対する衝撃強度が大きくなる。

## 4. 図面の創単な説明

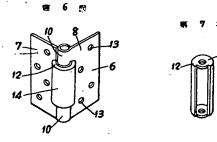
出1 図は従来の丁番の外観斜視医、第2 図はその欠点を説明するための説明図、第3 図乃至第5 図はこの発明の一実施例を示す恩で、第3 図は外観斜視区、名4 図はそれぞれその要能正面図、第5 図は第3 図の場件記別図、第6 図及び第7 図は本発明の異なる実認好を示す外観斜視図である。

6 …丁治、1 , 8 … 羽银板、 9 , 10 …ナックル 、11 … 遅新ピン、12 … 実出品、14 …リング。









### 6 前記以外の発明者、特許出顧人または代理人

(1)	免住	明所	者		大字門裏1048番地 株式会社内		
	氏	. 名		武	かり	古	ける

(2) 特許出願人

(3)	代	理	<b>J</b>	
	住	所		大阪府門真市大字門真1048番地
				松下電工株式会社特許課內。
	氏	名	(7338)	弁理士 佐 藤 成 示
	住	所		大阪府門真市大字門真1048番地
			•	松下電工株式会社特許課內
	氏;	名	(7587)	弁理士 川 瀬 幹 夫
				•